

(学年) 専攻科 1 年、(教科・科目) 看護・小児健康生活支援論Ⅱ

一斉学習

(単元) 消化器症状を示す子どもの看護

(本時のねらい)

1. 消化器症状を示す子どもに対し、小児の特徴を理解したうえで、あらゆる可能性を考えた観察項目がわかる。
2. 消化器症状を示す子どもとその家族の状態をアセスメントし、必要な看護を考えることができる。

(ICT 活用方法)

電子黒板に写真や検査画像などを投影し、それらの配布資料を紙媒体ではなくデータで授業支援クラウドアプリにて配布する。一人一台端末で配布資料を確認しながら知識を整理し、必要に応じて各自一人一台端末上でノートをとる。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T 活用方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの内容と本時の学習目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの内容を想起させ、本時の目標は黒板に明示する。 	
展開 1 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児外来に来た消化器症状を示す子どもの事例 1 (ロタウイルス) ・ 正確にアセスメントするために必要な情報は何かを考える。 ・ 必要な情報について、どのように情報収集するかも含めて挙手で主体的に発表する。 ・ 該当疾患についての看護のポイントを復習し、必要な看 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例の提示は、外来受診時の最小限の情報にする。 ・ 既習の知識と照らし合わせるような助言し、新たな情報を与える。 ・ 実際に子どもやその家族に聞くように情報収集させる。 ・ 出てきた情報を 1 つずつ提示する。 ・ 知識を整理し、今必要な看護と今後必要になってくる看護、双方に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大泉門の状態や便の性状などは電子黒板に写真を投影する。 ・ 数値などは黒板に記入する。 ・ 写真などのスライドを授業支援クラウドアプリに配布する。

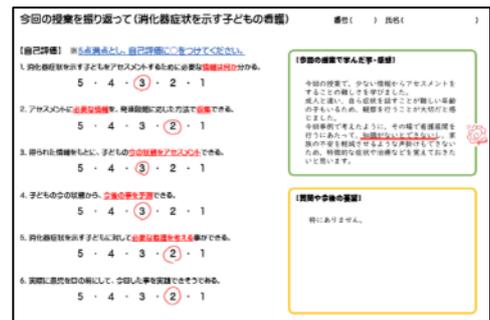
	護について考え、意見を出す。	ついて考えさせる。	
展開2 30分	・事例2（急性虫垂炎）を提示し、事例1と同様に展開する。	・緊急度の判断も考えるよう促し、腹痛、嘔吐、発熱、炎症反応などについて観察できるよう助言する。	・展開1と同様エコー写真やCT画像などを電子黒板で投影する。
まとめ 10分	・本時の学び・感想を記入する。	・様々な可能性を考えてアセスメントすることの重要性に気づかせる。	・授業支援クラウドアプリ（個別学習モード）に記入する。他の学生がどのような学びを書いているのか、生徒同士で見られる状態にし、共有する。

(授業の様子)

《 ↓ 電子黒板に投影した写真など 《



《 授業後の振り返り → 《



(生徒の反応と課題、改善を要する点)

以前はモノクロ印刷で資料を配布していたが、写真を授業支援クラウドアプリで配布したことで、カラーで見ることができ、資料として有効なものになったと思う。資料は授業の展開内容から、事前に配布することはできず、配布に時間がかかっていた。データで配信することで時間短縮になると考えていたが、通信速度の問題で、逆に時間がかかってしまった。また操作側の慣れも必要になると感じた。

また今回は、黒板に本時の目標を記入して残して置けるようにし、電子黒板でカラーの写真などを投影。事例は紙媒体で配布し、黒板に数値などの新たな情報を記入した。それ

それぞれのメリットを活かしてさまざまなツールを活用できたと思う。

看護では、患者の状態をイメージし、観察して得られた情報を自分で判断できる力を身につける必要がある。そのためには可能な限り現物に近いものを見せることが有効であり、写真などはこれからも活用していきたい。